

甘藷先生 の 置き土産

～青木昆陽と千葉のさつまいも～

2022 展示概説
8月30日(火) ▶ 10月16日(日)

プロローグ

幕張とさつまいもは切っても切れない結び付きがある。幕張地区を歩けば、いたる所にさつまいもに関連したものを目に見ることができる。

京成幕張駅の目の前には、さつまいもを広めた青木昆陽を「芋神様」として祀る昆陽神社があり、その近くには昆陽がさつまいも栽培した、千葉県指定史跡「甘藷試作の地」があって大きな石碑が建っている。

さらに、京成・JRの線路をくぐる地下道は「昆陽地下道」と名付けられ、千葉市幕張公民館に設置されているステンドグラスには、さつまいもの花と葉が描かれている。近くの保育所は「いもっこ保育園」で、千葉市立幕張小学校・幕張中学校の校章はさつまいもの葉がかたど

られている。また秋には今も「昆陽祭」が行われている。

このように、さつまいもを抜きにして幕張の歴史を語ることはできないが、なぜだろうか。さらに、青木昆陽と幕張を糸口に、千葉市域とさつまいもとの関係について考えていくことにしよう。



昆陽神社

(千葉市花見川区幕張町4丁目)

第1章 「芋神様」青木昆陽の実像

青木昆陽は、名が「敦書(あつり)」、通称は「文蔵」で、江戸日本橋小田原町の魚問屋「佃屋(つくだや)」に生まれた。享保4年(1719)に京都堀川(京都市上京区)の古義堂(こぎどう)に入門し、伊藤東涯の門人となる。



昆陽先生甘藷試作地之碑
(千葉市花見川区幕張町4丁目)

享保18年、昆陽は、江戸町奉行所の与力加藤枝直(えなお)に推挙され、奉行大岡忠相にさつまいもの効用と栽培法を説いた『蕃藷考(ばんしょこう)』を提出した。さらに将軍徳川吉宗の命令で、同19年に江戸城の吹上御苑、同20年に小石川薬園・九十九里・幕張でさつまいもを試作して、一定の成果を収める。

吉宗による享保の改革の中、昆陽は救荒(飢饉への備えと対策)政策として、幕府の公認の下、さつまいもの栽培に取り組んだ。その功績は高く評価され、幕府の記録や後世の書物等へ書き留められていった。こうして、昆陽はさつまいもとリンクする形で、歴史上にその名を残すことになった。

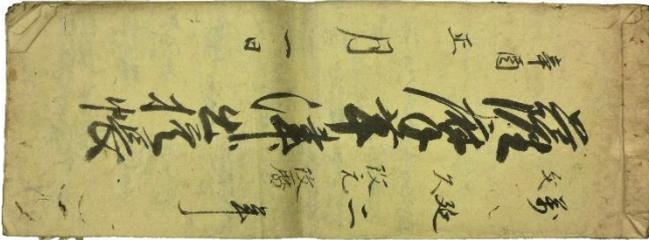
その後、昆陽は古文書探訪や蘭学の研究を行い、評定所勤役儒者を勤め、旗本に取り立てられた。明和4年(1767)には書物奉行となる。

第2章 江戸時代のさつまいもと千葉

青木昆陽の試作を契機に、さつまいもは日常食として江戸庶民の暮らしを支える作物となった。江戸では、あらゆる場所で焼きいも屋が見かけられた。また、さつまいもを使用した料理本も出版された。

さつまいもは、商品作物としての価値も高く、千葉市域北西部のさつまいも産地の村落と、江戸のさつまいも商人は、流通の独占をめぐり争論となった。

千葉市域北西部では、柏井村（千葉市花見川区柏井町）や犢橋村（同区犢橋町）といった内陸部の村落で、さつまいも生産が主要な生業となっていた。



万延2年（文久元年：1861）「薩摩芋津出控帳」

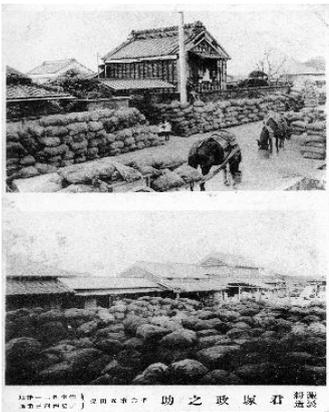
（個人蔵：当館寄託）

一方で、馬加村（同区幕張町）は、青木昆陽による試作地だったこと、さつまいも「起立根元（きりつこんげん）」の村、つまり栽培元祖という特別な意識をもっていた。そして、昆陽神社を建立し、昆陽の神格化を図った。

第3章 千葉における近代のさつまいも栽培と デンプン製造業の発展

千葉における近代のさつまいも（甘藷：かんしょ）は、品種や栽培の改良、製造業の興隆と、発展の時代だった。

千葉県農事試験場（千葉県農林総合研究センター）や千葉県農会は、さつまいもの品種を改良して、全国各地へ普及させた。また、穴澤式甘藷栽培法など、栽培の改良に関する事例も多く紹介された。



絵葉書「澱粉製造
君塚政之助」(当館蔵)

さらに、さつまいもを原料としたデンプン製造業が、千葉郡内で展開された。製造機械の開発や改良もあり、五田保（ごたっぼ：千葉市中央区稲荷町）をはじめ、蘇我町や幕張町は、デンプン製造が盛んな地域となった。

そして、デンプンを原料とする製造業も発展し、千



参松工業 千葉工場
(昭和33年 当館蔵)

葉を代表する産業となった。参松工業は、大正13年（1928）に千葉市で工場を操業し、水あめやブドウ糖などを製造した。

また、国の専売となるアルコール製造の工場が、稲毛に設置された。

エピローグ 甘藷先生の置き土産

—青木昆陽が千葉に残したもの—

戦中・戦後の食糧難を救ったのはさつまいもであった。「代用食」とも言われたが、飢えをしのぐために大いに役立ったため、さつまいもの栽培を広めた青木昆陽の評価はさらに高まった。昭和29年（1954）に幕張の試作地が千葉県指定史跡となったのも、そのような背景がある。



青木昆陽肖像画
(千葉市幕張公民館蔵)

食糧事情が改善されると、さつまいもデンプンの生産も復活し、これを原材料とする工業も再び盛んになった。昆陽の200回忌を迎えた昭和43年（1968）には、幕張の試作地に県知事の揮毫（きごう）による「顕彰碑」が建てられ、『千葉県甘しょ発展史』が刊行されるなど、農業関係者・デンプン工業関係者によって記念顕彰事業が行われた。これらのさつまいも関連産業は、まさに「甘藷先生の置き土産」として発展した。

現在も千葉県は全国有数の産地であり、ブランドとして知られる千葉のさつまいもを用いた商品も数多い。

政令市移行30周年記念 令和4年度企画展

「甘藷先生の置き土産～青木昆陽と千葉のさつまいも～」
展示概説

令和4年8月30日発行

編集・発行：千葉市立郷土博物館

千葉市中央区亥鼻 1-6-1